

福島原発事故により放出された放射性 微粒子とその再拡散・再汚染の危険性

その無視・軽視がはらむ
「集団自殺的」な破局

渡辺悦司
2016年6月23日

1

放射能雲のイメージ 見えない・臭いもない・感じない



放射性微粒子による内部被曝の危険 性に対する恐るべき無頓着が蔓延

2



国道6号線の清掃ボランティア活動には多くの中高生が参加した。子供たちのほとんどは、マスクを着用していない。(2015年10月10日)



天皇・皇后、マスク着用せず福島県川内村の除染現場を視察

「除染をする作業員たちはマスクを装着し、防護服を着ていたが、両陛下は『付近の放射能レベルは問題はない』というご意向を示され、防護服やマスクを着用されることはなかった。まさに並々ならぬ決意で臨まれたご視察だった。』『週刊女性セブン』2012年11月1日号(視察は10月13日)

「『除染をしっかりやって子供たちが戻れる環境を早く作ってください』除染作業を視察された天皇皇后両陛下から心温まるお言葉をいただきました。』政府原子力被災者生活支援チーム『ふれあいニュースレター』No21

マスクはすべての微粒子を取り除くことはできないが、マスクさえ着用しなければ、そのまま取り込んでしまう。



花粉マスクに付着した放射性微粒子の画像(東京大学本郷キャンパスにて)

230

Health Physics

February 2013, Volume 104, Number 2



2011年3月15日東京大学本郷キャンパスにて観測

Fig. 3. Left: Image of the mask. Right: Image displaying the radioactive nuclide distribution of the mask on the left. Detection time was 24 h.

https://www.researchgate.net/publication/234011478_The_Reductive_Effect_of_an_Anti-pollinosis_Mask_against_Internal_Exposure_From_Radioactive_Materials_Dispersed_From_the_Fukushima_Daiichi_Nuclear_Disaster

6

放射性微粒子の放出の姿



煙の正体は？

白い煙の大部分は、放射性微粒子である。
 (左) 1号機爆発直前のベント (3月12日14時30分～)
 (下) 1号機の爆発 (3月12日15時36分)



政府は水蒸気爆発であるということによって、同時にこの煙が放射性微粒子雲であることをぼかそうとした。

3号機の爆発では火球がはっきりと見えており、核爆発であった可能性を示唆する(3月14日11時01分)



煙の色が黒いことは破碎された核燃料の破片・粉塵が大量に舞い上がっていることを示唆している

噴き上げられたガレキが落下しているのが見える

排気塔の長さは約120mである

9

3号機爆発後の衛星写真(14日)



この煙も放射性微粒子である

10



3月20日の2号機の状況。

政府の推計によれば、2号機は、各号機のなかでもっとも多くの放射性物質を放出したとされているが、建屋は大きくは破損しておらず、詳細は不明。出ている煙に注意。



3月16日の状況(内陸への風)

4号機からの煙が明らかに灰色であることに注意



このような白い煙も水蒸気だけでなく放射性微粒子を多く含むものと考えられる 12